THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

明治十九年十月十五日

定價金四錢

# 女學雜誌

第三十九號

每月三回發行

續文舍

續文舍



Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

# 目録

●〔女學叢誌〕藝妓ハ宴席より退ぞくべし●〔中外新報〕數件●〔學藝一斑〕植物學一斑●〔對譯〕泰西箴諺および羅馬字對譯●〔列女傳〕松平孝子君の傳●〔雜記〕東京流行の衣服○夫婦大學○賢女金言集○机の塵●〔新作物語〕一躍全命海上の奇偶●〔家政要報〕西洋洗濯○鰯の料理法○呉服其他日用品相場●〔御伽草〕日本語學者の奇説○奇臘名畫工の格言○數學問題及答式●〔寄書〕西洋女服の仕立方○束髮法の問○詩歌數首

## ◎女學叢誌

### 藝妓ハ宴席より退くべし

本誌ハ元來淑女令孃たちの御覽する叢誌なるが故に世に賤しき遊女の事ハ固より藝妓の事たりとも紙上に記載するを屑よしとせざる所なり斯るものどもハ譬ひその原の起りハ親兄弟の爲になど口實ありて如何なる苦節に出たりともろもろの生業のいと賤しかる上からハ聊かの善行令聞あるも爭でか叢誌の上に記載して公然世に披露する事のあるべきぞ其善行令聞の埋れ果るところ惜からめども斯る賤き生業なせる者の善行令聞ハ不浄物の上に落散たる花とぞ見るべき如何に艶美しとも手をだに觸るべきものならじ況て善行令聞ならぬをやこれ社會に對する德義にして新聞雜誌など書綴れるものゝ心すべき事にぞある況して世の淑女令孃たちの御覽する雜誌に於てをやされバこそ余輩ハ斯る賤しきものゝ事を本誌に記載するを屑よしとハせざるなれ二年ばかり前の事なりき倫敦なる或る新聞ハ街の上に蒼蠅なす賤しき女どもの事を記載せしとていたく世の非難を受けたるにあらずやこれ皆社會の德義を重んずるが爲めの外ならず流石ハ文明社會のこととといと慕はしき美風なり然るに我が邦にてハ昔しより婦人の苦節といへば即はち憂き河竹の流れに身を沈むるとか變る枕の云々なりとか物の書にも書き記し少しも憚るところなくこれを讀むものもまた聊か咎むるところなきこそうたてありける次第なれこれ全く野蠻の遺風にして風俗改良の上に於て最も改むべき風習なりさればこそ余輩の記載するを屑よしとせざる所なるをさへ忍て聊か思ふよしを述べんとハ欲するなれ遊女の事ハ牛馬にさへ譬ふるほどのことなれば清浄なる紙上を穢すまでにもあらず余輩の最も怪しかる事なりと思ふハ世に紳士なりゼントルメンなりといはるゝ人々の宴席にハ必らず藝妓を侍せしめて酌を取り媚を呈し席間に周旋なさしめ以て歡樂となし客を招くにもこれを馳走なりと考へ客もまた丁寧なる款待と喜び恬として憚からざるのみならず公然これを新聞紙上に記載して何の日何れの宴席にハ何橋とか何町



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

とかの藝妓數十人(多きを以て盛んとせり)酣酌に侍りていと盛會なりしとか歡を盡したりとの書き立て少しも憚るところなきハ沙汰の限りにしてこれをしも怪しかる事といはずてやハあるべき況して妻ある人ハ堅く愼しむべき事なるを左ハなくて何の宴席にハ幾名の藝妓侍りて盛宴なりしとていと誇顔に妻女にも語り聞えろの妻たるものも却りてこれを全盛なる事に思ひなすものも間々あるべし試みに人の妻たるものゝ外に出て賤しき藝以て媚を鬻く男ども呼び集へて宴席に侍せえむる事ありとせんよろの良人たるものハ固より世の人これを何とかいはん婦人に有まじき振舞とこそいひていたく責る事ならめ婦人にしてあるまじき振舞ならんにハ男子たりともまたあるまじきの振舞といふべきなり斯る社會の有様を以てこれを歐米文明社會の有様に比ぶるときハ果して如何なる相違かある余輩の知れる何某といへるが嘗て自ら主人となり自已が知り合なる歐米人誰彼數人を招き洋食以て饗應なしけるにぞ來客一同ハ卓に就き既てシヤムパンを拔く音も噪すしく各々歡を盡して飲食酣なる折柄主人の指圖に隨ひ豫て備意やしたりけむ別室より數十人の藝妓出來りたるに洋式の宴席にハ爲すこともなく殊更ら目立て邪广ものたるに外ならざりしが扨て來客たる外人等ハ俄かに靜まり返へり食事もそこ〳〵に仕舞て禮辭を述べつゝ出行きぬ主人ハ餘りの不審さに居殘りたりし一人の外人に打向ひて初めのほどハ人々いと快樂く見え且つ物いふ花をさへ添へたるに何とて斯く心短かく去り給ひぬ仔細ぞあらむと問ひたるにされバなり我が歐米の風習とて妻もてるものハ外に出て戯れ女などゝ同席することハ(内密にハ兎も角も)社會の徳義上あるまじき事とするが故なりとぞ答へしとなん之れ一場の失錯ばなしなりといへどもまた以て彼の社會に徳義を重んずるの一斑を覦ふに足るべきなり左れば我が社會にありても斯る風習を移し苟にも紳士たらんものハ斷然宴席より藝妓を逐ひ退ぞけたゞその音樂を聞かんとならば別室に於て奏せしむべき事なりかし藝妓たるものもまた眞の藝道を以てこそ人に招かるべけれ何んぞ醉客の頤使に隨ひ酌を取り媚を獻じて席間の婢妾となり人のもて慰ものとなるごとき不見識の事あるべけむや西洋の或る學者の説ところに據るときハ今尙ほ野蠻人民の中にハ客を款待すに當坐の妻妾を侍せしむるの國少なからずといへりされば藝妓を饗宴の席に招くハ野蠻の遺風といふべきなり是れ余輩の所よしとせざるをも忍びてこゝに之を論ずる所以なり





Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

# ◎中外新報

○本欄の記事　元來本誌は專門の雜誌にてありながら是まで舍員の手廻り兼しところより止むを得ず外國の事に渉るの外は（外國の事は本誌の爲め特別に購求する歐米各地の婦人新聞敎育文學等の各種より譯出せるものと舍友より投寄の通信などにして決て普通の新聞紙より寫し取るが類にはあらざるなり）府下普通の各新聞紙より抄錄いたし來り甚だ遺憾の事なりしが今度舍員を增し本誌の專門とせる所よ關する事柄は可成精確なる探訪を遂げ專門の雜誌たるに背かざらんとを勉め既に本號よりはその出處を掲げたるものゝ外は總て本舍特別の通信と探訪とに得て記載したるものなれば此段讀者諸君に告げ參らせ置きぬ

○宮廷錄事　皇后宮には去る十二日午後一時過ぐるころより華族女學校へ行啓あらせ賜ひて上等小學第一級生の地理科（敎師秋山四郎）下等小學第二級生の實物科（敎師佐野安）初等中學第二級生の英佛學科（敎師小鹿嶋筆）その他音樂敎場および博物室、理化學機械室、書籍室を順次に御巡覽あらせて同じ三時に還御あらせ賜ひたる由に承はる（十三日日々新聞）

○伊國の皇后　本年伊國にて流行せし虎列剌病のために兩親を失ひたる小兒の數百五十餘人の多きに至りたればこの爲に育兒院を建築すべしとて伊國の皇后より資本金の中へ一萬二千フラン（二千四百圓）を寄附あらせたるよし

○舞踏會　內外の貴婦人方は明十六日鹿鳴館に於て踏舞會を催ほさるゝよしなり

○高等師範學校　同校の生徒は自今西洋服を着することゝ定められたりしが元來同生徒は他日人の子女を預りて敎導するの任に當るものよしてその風俗は人の摸範ともなるべき事なれば万一奢侈虛飾の風に流るゝ事ありてはこれを人に及ぼすの害少なからざるに付き驕を戒めて節儉を主とし專ら質朴の風を養生すべしとて絹および金銀宝石などの類を用ふる事は一切禁止せられたるよし左もあるべき事なり

○米國の婦人醫者　同國フヰラデルフヰヤ府には婦人にて醫を業となせるものゝ中平均一箇年に二万圓の所得あるもの八名一万圓のもの十二名五千圓のもの廿一人ありまた紐育府醫學校の第一等卒業証書を所持なせる婦人二百五十名もありて皆評判甚だよく男子の醫者よりも却て多忙なりといふ我が邦にても時にとり婦人の方男子よりもよかるべし



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○産婆學研究　前號に記載したる産婆學校の幹事たりし尾池よね女ハ去る二日横濱出帆の汽船シチーオフペキン號にて愈々米國オークランドへ向け出發せられたり同女ハ明治十年中東京府立産婆養成所の卒業証を受け其後ハ産科醫櫻井郁次郎氏の門に入り益々此道を研究し且つ内務省の免許をも得て開業し傍ら右の學校の幹事をも勤め居たりしが追々世の開くるに隨ひ外國人の産所へも臨むことゝもなるべきに付き海外に於て尚ほこの道を研究しながら語學をも修めざるを得ずとの着眼にて今回の洋行を思ひ立れたるよしなるが今より五箇年間留學するの見込なりと聞く

○また　前項に記したる産科醫櫻井郁次郎氏の私塾にて去る九月中産婆學を卒業せしハ鈴木まり女内田さく女市橋きの女外九名なりしが孰れも此ごろの筋の試驗を受けんとて出願中なりといふ

○下女協會　濠州メルボルン府にハ下女協會といふがある由なるが此ごろ發したる報告書といふを見るに「此會の仲間ハ決して雇ひ主等に向つて逆らはんなどの考へを以て結合したるにハあらず左の主意に由て結合するものなれば世の人の誤解し給はざらん事を希望す即ちその主意ハ(第一)仲間のものの相互に助け合ふべき爲めに結合する事(第二)會員相互に養育をなし合ふべき事(第三)奉公の事に付生じたる紛議の和解をなす事を勉むべし(第四)奉公口を求むるに便利にして費の掛らざる樣その局を設くる事(第五)雇ひ主と雇はれ人との間に生ずる紛議の仲裁をなしまた壓制の事などありし時ハ之を免るゝ事の助けをなし總て此協會の至當なる利益を殖し且つ保護する事(第六)仲間のものにて奉公口を失ひたる時ハ之を養ひ置くべき家屋を建る事(第七)仲間のもの病氣に罹りたる時ハ之を助る爲め看病資金といふを積立る事「扨て奉公人どもの最も難義するハ奉公人記名役場といふがありて何事も此役場の自由にせんとするがゆゑに前に述べたる口入局を設け此害となる役場を廢せんと欲するなりまた奉公口を失ひたるものゝ宿るべき家にてハ可成入費のかゝらざる事を專務とすべし此會に入る時ハ入會金三十七錢五厘一週間毎の出金六錢二厘五毛看病資本の積金一週間に三錢にして此餘にハ一文をも要せずして口入ハ勿論一切の世話をなすべしまた雇ひ主よりハ雇人一人に付一ヶ年五圓を出さしむる事」とあり東京にてもかゝる仲間を結び右の規則の内へ料理裁縫等の教育をなす箇條を加へたらんにハその益多かるべし



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○共立女子職業學校　神田錦町なる同校ハ開校ありてよりいまだ日數も立ざるに生徒の數ハ現に百七十餘名におよびその中甲科九十八乙科八十八なりと聞く

○東洋英和學校　麻布鳥居坂の同校へ今度新たに雇ひ入れられたる外國女教師ウヰンターミウト夫人ハ英領カナダの人にて幼き時よりオンタリオ州に於て普通學科および唱歌音樂等を修めその後女子師範學校および師範學校を卒業し遂に女子大學校に入りて佛蘭語學ならびに羅典語學を修め同校の榮譽証を受け且つオンタリオ畫學校に於て畫學をも修めたる人なるよし

○米國教育雜誌　ボストン府にて發行する本月二日の同雜誌に去るころ工部大學校に於て行ハれたる帝國大學の學位授與式の景況を委しく記載したる末來觀人の中にハ貴婦人をも見受けたるよしまた卒業生の多くハ痩せて顏色蒼白く且つ眼鏡を用ひしハ非常の勉強をなせしが故なりと聞きたるが日本に於て今より興起する人々ハ肉體を費やして文學および理學上の必要を買ふものといふべし我々ハ速に此資金の減せん事を禱るなりとの批評ありたり

○堀越秀　即ち市川團洲がこの頃某紳士の招きに應じその宅よ至りたる時紳士ハ笑ひながら演劇改良の事に就てハ定めし足下も贊成の事ならんとハ思へども如何なる說のある妨けずば語られよといはれたるにさんハ「某が思ふ所の大略をまアづ一ト通りお聞下され」といひて例の如くシヤンと體を反らせたりしや否記者ハ知らざれども改良論の大體にハ固より贊成に候へども院本の改良といひ男女混演といふも皆いふべくして容易に行ゐるべうも候ハず且つ目下の觀劇家の有樣にてハ兎ても早急の改良ハなし得難く存ずれハ急進ならんよりハ寧ろ漸進なるん事をこそ望ましく候へと演べたる由

○一寸心得　敬ひ順ふべきハ兩親、教師、目上の人。至當なる行をなすべきハ家よ於て、學校に於て、市中に於て、公けの場所に於ての時と老人に對する時。常に信實に正直に心切に温良にして正しき事を爲すべし

## ◎學藝一斑

○植物學一斑（第三十七號の續き）

植物の食物ハ流動体と氣体のみにて固形体のものを食ること更になく根を以て吸ひ取るところの水氣の中にハ氣体と鑛質とを溶解し居るものにしてその水氣ハ植物の體中に入り追々





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

上の方にのぼり葉の末に至り葉もまた空氣の中より炭酸を吸ひ入れろの葉の中よある水氣と炭酸とハ大陽の光りを受けて「澱粉」といふものとなり植物の総體に行き渉りてその植物の生長する原質の大部分とハなれるなり

また根より吸取りたる剩餘の水氣ハ葉より蒸發るがゆゑに大陽の熱氣を受くるも常に葉ハ冷のにして枯るゝ事なし扨て葉の中にて出來る澱粉と根より吸上る窒素の混合物とハ總躰に行渉り居る水氣に溶解されて「蛋白質」となり植物の生長に最も必要のものとハなれるなり

花咲く植物の再生の法に二通りありろの第一ハ實より生ずるものにして重なる植物ハミなこの種類にして第二ハ莟より生じ別れて獨りだちの植物となり實ハ二種の機關の兼合にしてその上を包みたるもの即ち果物なりまたこゝに莟といふハ捲丹あるひハ馬鈴薯の地面より下にある枝の節々などのごとく葉の附き居る所など莖幹のところ〳〵にあり成長して後別れて獨りだちの植物となるものなり

植物の中にも人の手業にて再生を拵へるあとの出來るもの甚だ多し即ち指木あるひハ接木をあしその木より根を生じまた葉を生じて追々に成長するものなり

（未完）

## MAXIMS & PROVERBS.
## 泰西の箴諺

(甲) A full purse never lacks friends.
㊀ ㊁ ㊂㊅ ㊄ ㊃
〔意譯〕金入れに一ぱいあらば友人ハ入らぬ

(乙) You cannot have blood out of a stone.
㊀ ㊆ ㊄ ㊃ ㊅ ㊂ ㊁
〔意譯〕石から血ハ出されぬ

(丙) What cannot be cured must be endured.
㊀㊄ ㊃ ㊂ ㊁ ㊇ ㊆ ㊅
〔意譯〕直されぬものハ永く保つ

## WHATELY'S SAYINGS.

To get a few flowers one must sow plenty of seed.

If all our wishes were gratified, most of our pleasures would be destroyed.

Sukosino hana wo uru niwa ōkuno tane wo makanebanaranu.

Omou koto ga mina kanaisi naraba, tanosimi wa nakunaru besi.

## ◎ 對譯

○泰西箴諺の直譯

(甲)㊀一杯又ハ十分なる㊁金袋(ハ)㊂決て㊃友達(を)㊄欠く㊅莫(㊂㊄㊅決して欠ぬ)

(乙)㊀汝(ハ)㊁石㊂から㊃血(を)㊄㊅出し㊆能ハぬ

(丙)㊀何でも㊁㊂醫されぬ㊃得ぬ㊄物(ハ)㊅㊆續けられ㊇ねばならぬ





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# ◎列女傳

## ○松平孝子君の傳

世のれし遷るに從ひて男女の身のたゝずまひ有樣の同じかるまじきはさる事なれど貴族はいふも更なり貧しからぬ家の深き窓に養ひたてられたる人々は世の交際にも疎く視聽との廣からねば心ざまなの光ならず萬の用意ふかく優れてめでたしともていつかるゝも公私に就て思ひ入ると淺く淡々しきたぐひ多くて夫をも助け子をも敎へて尊きも卑きも程度にあかぬ事なく取まつろへ行く人はいと多からざるめり然れば女の學ぶべき筋心得べき限の事ども其かたに撰び定めて習ひ學ばそるとゝなれる今日より後は智識も事業もならび進みて愛たきが數あまたになりぬべけれど此事の論ひのとざまかうざまに漂はしくて夫と確に知られざりし程には貴族の玉簾のおくにもうたて目さむるばかりの事の許多聞えしなかに彼當麻の緣起に語り傳へし中將姫花の姿に持戒をいかゞと疑はれて面やきたる了然などにもをさ〳〵劣るまじき君おはしけり昔は波の寄る鳴原知り賜へる松平忠和君の先の殿にて主殿頭と聞えし君の御女孝子となむ申しけるいと幼く在しゝ頃より終には此殿のあるじとしも定め賜はむの御豫定なりければ和漢の物學びにもよき師を撰びて習はせ賜ひしのみの絲竹の道はかなき花結びのわざまで斯る御あたりにせさせ賜ふべき限りは皆敎へ參らせられしとぞ扨後々は御めあはせにもとて御分家の若君二人まで養ひとらせ賜ひしに何れも世を早うしたまひしに世の中の形勢移りかはりて維新の時よあへるに此君は十歳ばかりにて在しければ相應しき御齡の殿にては公私につけて便なかるべしとて斯る御あたりには皆年齡ねびとゝのへる繼嗣もとめさせ賜ふ例なりしかば此御家にも今の忠和君を迎へ取らせ賜ふとを定められしとか然れば幼き御心にも兼ての望の違へるとを如何でかならうも悲しう思し歎かせ賜ふと深かりけむ折にふれては豫定ごとの賴み少きとをなむむづからせ賜ひしとか軒端の花ちりて青葉吹く風も殊にうつり枯生にさやぎ霰と乱れ雪となりて四五年は只夢の間ようち過ゆきし比もと越の國村上といふ地領たまへる內藤の殿にて泉の岸和田より渡り賜へるみ御よすが定まりて移り住せ賜ひけり妹脊の御交情はいと睦しう事もなう在したれば蘆分船の障り多からずは千歳もかくて愛たく添せ賜ふべかりしに此殿に參り通へる甲乙とて狡猾きものゝ種々にわたくしの



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

利益えむと謀れるがありて斯る事
せさせ賜はどいみじき御爲に侍る
べし某の殿も其同盟に列り賜ひぬ
などいと巧に惑し參らそるにしか
すがに怜悧くは在すれど斯る者の
僻說を夫ともさとらせ賜はねば家
の爲身の爲あしからずとならば
我も爭か後れむなどひと筋に賴み
賜ひしよりさるまじき御擧動など
も這許見えしらがへば心ある人々
は歎ぎ悲みてあからさまに諫め申
しもしつ此君に聞えあげて內々に
思ひ止らせ賜ふべくおもふけ聞ゆ
るふしもありしかど猶さとらせ賜
はずあのめなる事多くて世の聞え
人の思はくも憚るべき事度量なり
しかば終に御離緣といへるいみじ
き事にぞなりぬる此君の御歎き如
何ばかりなりけむ推量るべし斯て

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

後ハ先の殿の御子六十麿君御繼嗣となり賜ひて此君にハ何方なりとも然るべき方へ御よすが定賜ふべきに極りしも御齢のいと若う在るに殊に優れてあてに美麗しう在するを斯ながら岩陰の花雲間の月の光りなくて過させ賜ハむがいと惜しうとての事なれど毫聞召し入れず或夜年久しく召しまつはし賜へる麻野といふ局を近く招き賜ひつゝのたまふやう此度殿のかハらせ賜ひしにつけてハ此身の斯てあるも用なき者とて終のよすが定めよとの事ハ理りなきにしもあらざめれど其ハ人よこそよるべけれ既う所天と定れる人の二人までも世を早うし賜へるからハ此方よ移るだよも心にうしろめたうゝら愧かしう思ハずやハあらぬ況て多くの年月をなれまゐらせし殿の思懸ぬとまて斯くならせ賜へばとて又何方にか此身をまかそべき今よりハ六十麿君を我子とも思ひて其が行末をも見むと思へど愁ひに年若く姿もかくてあればこそ心の緒の紊るゝ事もやと疑ひ惑ふ人あるなるべし妾ハとく思ひ定めつるものをとて涙ながらに取出し賜ふを見ればかくなむ

　長からば迷ふすぢもとおやふさに我黒髮も思ひきりにき

いざとく〳〵とて鋏出して促し賜ふに麻野ハ目くれてゝち惑ひて頓にハ御應へもしあへず如何思ひ切らせ賜ふとも此事のみハと辞み聞ゆれども許し賜ハずさばかり心弱からばかたらふ甲斐なし自ら切りてもし過ちやせむと思へどそをだに厭ずハさてもあれかしとて鋏取賜ふに麻野も力なくて末短よろぎ果つゝりし後ハ六十麿君の御後見いと懇にせさせ賜ふ外にハ折にふれ時につけたる歌などに御心を慰め在しまそとか世にハたのめる人に後れてさまかへながら猶よごゝろの失も果ずてなまめき淫れたる事の多く聞えて思ひ切たる黒髮の末の紊れも數多あるにさる筋なく過ぎ去りし人の爲にも世にある人の爲にも心潔さを見え知らせ賜へるハこよなき御心おきての無てハのなふべくもあらぬ事にこそ

## ◎雜記

### ○東京の流行衣服

西洋諸國の婦人雜誌に倣ひ本誌に於ても時々婦人の流行ものを穿鑿して掲ぐべしと此處彼處探訪中とやくも時事新報ハ東京の流行と題して今年夏服の流行物を掲げたればまづ取り敢ずこゝに抄出し爾來ハ舍員の手にて探訪をなし時々の流行物を掲載せん扨て當夏流行衣服の色ハ大抵鼠にして鼠に六十餘種ある中にも大方ヒチツタものゝ藍鼠、藍消鼠、吉原鼠、深川



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

鼠、美女鼠、柳鼠、紅鼠抔は當節柄の向きものにて柳鼠は極洒灑、紅鼠は十五以下の娘なり人々の好み種々なるべけれども兎に角鼠の外には出ざるべし取りわけ婦人の禮服は上州桐生製の鼠絽かさなくば越後、米澤の數奇屋または西陣の明白縮にて紋は鯨尺七分の三ッ紋にして下重は白絽または白練なり時として白の奈良晒を用ふるものもあれどこは十中二三あるべし帶は繻珍の丸絎にて八寸七分のお極りなれども老年の婦人が足利、桐生製上等の唐繻子織を七寸五分と幅狹に出掛けたるも腰の曲りに釣合しての流行ならん敗湯卷も白縮緬帶締はパチン止幅三分より四分の間を昇降し色は鼠の外に樺色の裕餘を與へたり若紺ならんには黑繻子の帶よ不似合よて淺黃ならば田舍兌く帶締一つで山の手と下町の相場を附るは夫者に取て珍らしからず右も一般婦人の禮服よて貴女の夜會令孃の祝言藝妓の御座附など大抵はみな相似て上下の流行一樣なれども下重ねは通例に餘り見ざるところにて餘ほど極つた席なるべし」下でお着替の常服は南部織りのお召縮緬よ鼠の縞入か或ひは數奇屋、明石の縞ものにて裏襟は水淺黃の縮緬或ひは絽の類を用ひ繻絆は麻に白縮緬の袖なれども小娘は紅時色または桃色を通例とす但し半襟は絽縮緬の極薄鼠かさなくば白か水淺黃よチョイと粋な縫摸樣または染摸樣おり帶は風津織と黑繻子の腹合か若くは博多の縞ものにて風津織は足利桐生博多は八王子を多しとぞ湯卷は總て白縮緬また小娘は緋を用ふれどもみな少し長きが今の流行よて風に吹れしとき見苦しからずとの評判なり」變りて浴衣地の上物は友仙縮緬(中形)の鼠地白地紺地にて十四五以下の小娘は近來やうやく上方風を摸擬來りて緋、紅、紫などの色を用ふるもの多く下つて尋常商家などの妻女より下婢兒守にいたるまで過半は木綿の中形と小紋形にして中形と小紋形とはたゞ年の老若に由るのみの事なるがこの中形小紋形は當夏目立ての新流行にて薩广飛白と東西に陣取り近ごろ目覺しき激戰に飛白をして一歩朱引外に蹴ゑ出さしむる勢ひなりしが秋風の仲裁にて來年の夏まで勝負お預りとは贔負の人に取てゐ殘念なるべし右の小紋中形とも千住在小新田にて染上るものあるがこの外上州製の關東縮、木綿縮も關脇より下には下らざるの景況なり」扨てまゝ東京にて袷を着る時節は誠に不規則よて昔ならば端午の帷子重九の袷などゝ氣候に構ひなく世の流行よ頓着なく人が極たる一定の若衣時がありたれども何事も自由を喜ぶ今の世の中に斯る事の行はるべしとも思はれず左れど





Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

人情ハ大抵相似てこの四五年を平均すれば凡ろ九月の廿日ごろより十月一ぱいは袷の季候と見え今が袷の着時なりツヨで婦人の禮服ハまづ一般に縮緬にて壁チヨロまたハ鶉織も用ふれどもこれハ十中の二三なり色ハお召鼠、藍鼠、藍消鼠にて是ハ二十前後三十歳までの色合なり小娘ハ紅掛鼠、柳鼠紅生壁などにて三十以上年増の婦人ハこれに反し藍鉄、茶鼠、相皮色など實味に出るが流行なり殊に三十以下の婦人ハ表と同品同色の裾廻し(八掛とも)に小形で粋な摸様を付けツキの七分と裾捌きで見せ度もあり見せ度もなしといふ趣きあるハ禮服に限りし裾裏にて是ハ江戸褄と稱ふる所を見れば徳川の水上より流れ來りし習ひなるべしされど胴裏袖裏ハ本紅絹襟と袖口とハ表と同じ但し三十以上の婦人にハ摸様一切ご無用と東京の空氣が禁じたり繻絆ハ凡て長繻絆にて若きハ紅紋縮緬、紅縮緬、友仙縮緬とし繻絆裏ハ裾廻しと袖とが紅縮緬にて中年増ハ薄鼠、淺黄鼠、山繭縮緬にて裾廻しハ淺黄縮緬半襟ハ老若ともに白縮緬またハ白壁チヨロにて若きハ少し金糸の摸様あり帶ハ朱張繻珍の丸帶にて織出し摸様ハ年齢により派出と實味との差あるのみ右ハ上等の晴衣なれどもお略と唱ふる禮服代用の衣服ハ表ハ小紋縮緬或ハ無地染にして他ハ前と變りなければども裾廻しハ表と替て花色紺抔まな平服の上物ハお召一樂、糸織、吉野織にて當世鼠に當世茶の色糸入が一般にて或ハお納戸地に赤、鼠或ハ鐵に消赤の色糸入またハ相皮銀鼠で赤糸除などハ今流行の眞最中なり

○夫婦大學(第三十七號の續き)

世の中にハ野蠻の事抦多く殘り居るものなるがその中にも夫婦の間に最も多く殘り居てその野蠻なる取扱を蒙るものハ人の妻たるものに過ぎたるはあらざるべし人の良人たるものゝ中にハ時として外に出てハ紳士となり家内にありてハ野蠻人たるものあるなれども女にもまた外に出たる時ハ温良にして恰も神使のごとく家にある時ハ殆んど惡魔にも劣るまじきほどのものあるからにハ男にもまた然るものあるハ當然なりなどて男のミを責むべきとのハ人の世にありてハ睦し向き和合する事を學ぶほど必要なるとハなかるべし和合にも夫婦の間の和合こそ合和の初めなれこの和合を學ぶに必要なるハ人の過失を發見しまたハ他を困らし先んとするなどの氣風を除くべしこれ甚だ小事なりといはん敢小事なりといへどもこれより家内の不和を生ずべし家内の不和ハ小事ありといふべからずされば夫婦の間に於て此不和を來すべき氣質をばはじめ相


Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

愛する心火の盛んなる中に投じて之を燒盡すべし斯くして男女双方温良なる性質を養生せざる時ハ唯相互に躁暴者たるに過ずして遂にハ相愛するの情も薄らぐべし　（未完）

○賢女金言集（大坂花のや菟道君報）

小督局曰　妬ミてあやしき事を語る人ハ必ずその心正しき人にあらずたゞ何事も常ならんこそよろしけれ

久子曰　終夜ら酒を愛してくだ〳〵しき事のミ云ひて世を渡る者ハ生たる人にあらず只夏の虫の燈を愛するが如し

太政大臣實敦の女維子曰　夫女ハ容貌の醜美を採らず言葉すくなに愛敬あるこそ第一の女なれ男ハ内に才學あつて人の噂の善惡を云はず猥に怒る事なきを第一の男とは云ふなり

烏丸中納言冬光の女勝子曰　此頃の人の有様ハ善となく惡となく衣服の善きに心を附て敬をなすなり譬へば善人たりとも財貨なきハとらず惡人たりとも寶をもてる人にハ諂ふひ仕ふることそうたてけれ

關白尙經の女經子曰　一座の興にもいつはりがましき言葉ハ云ふまじき事なり一言いつはりを云へば万言みないつはりとなる者なりものまづ心にうかびて後口にいつるものなれば誠の人にハ戲むれの謂あらんやよく〳〵心すべき事にこそ

○机の塵

神無月の事　十月を神無月と名くる事奥義抄にハ此月諸神出雲の大社に集り玉ふ故に名くるとあり徒々草にハ此月太神宮の御許へ諸神あつまり玉ふ故に名づくと雖ども覺束なしと書きたり水戸光國卿の説に曰く万葉集第十三の歌に霹靂之日香天之。九月乃。鍾禮乃落者。と云ふ歌あり月令にハ仲秋之月雷始テ収レ聲とあれどもそれハ大方の事にて右の歌にハ九月にさへ霹靂をよめり然れば純陰の月なれば雷の聲のをさまりはつる故に無雷月とハ云ふなるべし同集に神の如聞ゆる瀧とよめるも後撰集に「千早振神にもわかぬ我中の雲井はるかになりもゆくかな」とよめるも雷神なり伊勢物語に「神さへいといみじくなり」と云々「神なるさはきに」云々此外猶證多し考へてしるべしとあり（大坂花のや菟道君の報）

◎新作物語

引續き愛讀を賜はりつる「巣守の妻」ハ春のや大人に聊か障ると出來て遺憾ながら次號に揭るを待せ給はんとを乞ふ然ればその間の埋草にもと講釋師の前坐めかして出たれども固より腹中ハ本來空の無一物さりとて何の書立ずばこゝの





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

餘白を如何かせんと咳一咳して机に向ひ蠟燭の眞よりあらで洋燈の心を捻り出し他の物せし西洋の小説を我物顔に燒直してとは思へどもさてはいつしか馬の脚もや顯はれぬらん寧そ彼の國の人情風俗を知らしめんには地名も人名も物の名までもその儘に譯してこそ虎を描て猫とやらんなまじいなる事仕でかさんには優しならめと英國の婦人何某氏の物せしエ、リープ、フォール、ライフ　といへる短き小説を翻譯して「巣守の妻」の中間に挿むこととはなしぬ此篇は僅か第七回にて完結すべければ霎時欠伸を忍びて譯筆の拙きをば見許し賜ひてよ其埋合せには次號に於て例の春のや太人の妙筆を御聞(否)御覧よ供る結構なり　倘來園主人識

## ○一躍全命　海上の奇偶

第一回　何となくもの思はしき出船かな

「もう出帆だらう」「さらョ間もあるまい」英國利拔坡港(日本の横濱ともいふべき港)普利麼の埠頭に、横附したる、大船の烟筒より、黒烟り夥しくたち上れるは、新西蘭土(南太平洋の嶋地英國の殖民地)に向ひて、航海なせる武世發魯士丸といふ蒸汽船の、今しも出帆せんずる有様なり

徐々と船中より出來れる人々の中には、涙含つゝ跡見返り勝なるは、親戚知友など見送りて來りたるが、旣て暇を告げ、さすがに別れの惜まれてぞ、歸り行くなるべし、斯る處へ乘遲れじとや、革包の手荷物を提げながら、いきせきと駈來れるもの幾人のある中に、最も遲れ馳なるは、脊高く面痩て、眼も落込み、頭髮も長く延びたるまゝにて、いと新らしからぬ帽子を目深に冠り、人品もさまで賤しとは見えねど、薄命の打續きて、世によるべなき人ぞとは、いはねど著き容貌風俗、出船を知らせる鐘の音に、いとゞ心も急がれ氣に、乘船口より甲板にいたり、ドサ、と卸したる手荷物が、其所よ立たる一人の足に、聊か觸りたるにや、その人は大層らしく、「アイタ、、」といひながら飛び退きて、大に怒り、聲あらゝげ「餘り亂暴な……アイタ……如何なさる……」ト詰れば此方は小腰を屈め、低阿土耳(名)越利孫(姓)と記せる革包を取り上げつゝ「これは誠よ和濟ぬことを、どうぞ御免なすッて下さいまし、眞の過失で……「ナニ過失、過失も氣を附くればせぬ筈ダ」ト傲慢らしく、煙艸入より卷煙艸を取出しながら「踵を蹴く……人を馬爬にした仕方」と頻りに息巻く横合より、氣輕ものと見えて、完爾と「暮井戸君」と呼び接け「マア此方へ入らッしやい、併しお怪我の有た譯でもな



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りますまい、人も見て知つて居る、眞の過失……「ナアニさうとハ思ハれぬ、而して、納膳君、お構ひ下さるな、全躰横合から大なお世話といふものダ」と越利孫ハ頻りに氣の毒がり、尚ほも辨解せんとなしけるを、納膳ハ越利孫の耳に口よせ、小聲になり「モー何もいはぬが宜しい、彼な奴と争ふても詮ない事」「彼レヤー、誰……誰殿でございますヂ」と問へば納膳ハ「マア私と同伴に此方へお出なさい、彼ハ暮井戸といふて、親父ハ更紗染の商賣をして段々と仕合よく、到底貴族とまで成上り、波兒智斯多兒郷といふ人だが、彼の男ハその末子でヂ、近頃まで、近衛の武官を勤めて居たところ、負債ハするし、酒ハ呑むし、賭事が好で勝負事ハ大好物と

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いふので、遂に官途を失墜り、其所で、今から新西蘭土へでも出掛て何か仕事を見附やうといふ譯サ「どうでございませう、もう怒りハしますまいか「どうだか知れません、全躰彼の男ハ一寸見掛ハ温良さうでも、ブランデーが功驗て居ると、チット執拗やうだが、また自分で氣に向た時ハ、大層機嫌が宜い事もありますヨ」ト咄しのうちにいつしか船ハ纜を解て駛り出でぬ、時しも十二月午後四時過ぐるころの、寒空かき曇り、雨さへいたく降り頻りて、さらぬだに濕りがちなるを、況して今日ハこの國の見収めとて、男も女も、さすがに遠ざかり行く陸地の惜まれてぞ、見えける、中にも彼の越利孫ハ、いとゞ物思はし氣にて、彼の乘合人なる納臘の氣輕なる談話を聞くさへ、却りて心に樂まず、自づと厭はしき心地しつ、獨り來し方行末のことゞも思ひ煩らひ、次第に遠かり行く陸地を眺めつゝ、甲板の上を行つ戻りつしたりける、

抑もこの越利孫といふハ、大家といふほどならねども、いと富裕なる家に生れしが、如何に過世のあしかりけむ、する事々に齟齬ひて、今の身の上とぞなれりける、其初めハ、株式といふもの賣買なせる商人の店に、雇はれたりしが、間もなくその商人ハ生業の上よりいたく損する事ありて、身代をも無くしたれば、越利孫も月々の給金とゝもに其位地をも失ひ、その後ハ農業を事となしたるに、初めの年より氣候不順にして、作物も穫らず、飼ひおける家畜も病を得て、一つ殘らず死亡けるにぞ、今ハとて、またも、或る商人の店に入りたりしが、今たびハ身弱くなりて、六月七月がほども、病の床に伏したりける後、やう〳〵全快しつる頃より、權敎正の娘なる、是巳(名)諾而武利(姓)といへるに、思ひ思はれて、互に末を契り合たりしが、その後一月ほども立ぬと思ふころ、女より手切の手紙といふを送りたる、その文の語に「御身のごとく、職業もなくて在する方と契りたりとて、末覺束なくこそ候へ、御身との兼言を守りて、時日を過さんと、妾が身にとりてハ、おたらしき事に候」とて先に取換しゝ品物をも添て返しける、後幾ほどもなく、他人と結婚せしと聞えたれば、越利孫ハ腹たゝしく、口惜しき事限りなけれど、せんすべもなく、いとゞ世を果敢み居たりしが、今ハはや、この國にありて何をかせん、と心とり直し、身の廻りの物ども取揃へて、新西蘭土に殖民せばやとぞ、定めける、今の身の上ハしも、我が生れたる國にてハ、住むべき家も、據るべき人もなくて、信深き女と思ひしハ空ごとにて、情薄くも捨られつるほどの、世に頼みなき身の果あるも、今年三十五と



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

筭へ、六六には幾月か足らずして、いまだ行き暮れたりといふ齢にもあらざれば、このさく先きは如何にのありけむかゝる過こし事ども思ひ返へして、世をかこちつゝありける折から、後背の方に優しき聲して「アレどうぞ……捕ッて……アノ蝙蝠傘が風で飛んで……風が傘を取てゆきます、どうぞ……」といふは、まがふべくもあらぬ女の聲（つゞく）

# ◎家政要報

**○西洋洗濯** 白きリンチルの古くなりて色悪しきは洗濯の時よく晒して石鹸を洗ひ出さゞるが爲めに後よいたり茶色となる事あり再びこれを白き色に復するにはろのリンチルを牛乳に浸して二三日置きたる後よく〳〵洗ひ流し尚はいまだ白色とならざる時は又幾度にても右のごとくなすべし扨又洋服の襟、袖口などに糊を附けて艶を出すには糊を煮る時に白色の生蠟を一塊入れて能くかき混ぜろの糊を附けて乾かぬ内に火熨斗をなすべしと聞きたるが記者はいまだ試しさる事なければ果してよきや否は知りがたしお試驗あれ

**○鰯の料理** 西洋料理より工夫したるなりとて知人より報じ越されさるよは鰯を鹽湯煮になし皿の上にならべ置き丸葱ならば極めてよけれども之なき時はたゞの葱を細く刻みて其の上に振り掛け別よ酢の中へ生姜胡椒などと醤油少しばかりを入れよく煮立てゝ後ち放冷して右の鰯よ掛け食そるときは至て淡白よして和洋合ひの子の料理なりといふ

**○呉服物の景況** は總て捌け方捗々しからぬ樣子にて目今袷の季候に當りポッ〳〵賣れ行けども相場に關はるほどの事もなく今月廿日頃には足利其他の市況および問屋より仕入客の進退も定るべければまづそれ迄はもちあひの姿なりといふ

**○柿** は昨今入荷最中なるが本年は蟲の附たる上に一般よ小さよしなれども昨今賣口よくこれがため一割方引上げ百に付大が六十錢中等二三十錢下等十錢以上なりとの事

**○柘榴** 本年は豐作にて百に付大小込なれば十錢以下は六錢七錢以上なりといふ

**○栗** も少し下落の氣味と見え一升四錢より五錢位なりといへどもろの内上等品は今少し貴かるべし

**○白米小賣相場** 今月十二日改正にて一圓に付一等米一斗三升三合二等米一斗四升三合三等米一斗四升七合四等一斗五升七合五等一斗七升壹合なり。





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# ◎御伽草

○日本語學者の奇説

ある邊土にかたくななる日本語學者あり其人の持論に五十音のア行ハ母音にてもろ〳〵の音の母なれば暫く措きカ行ハ水土に屬する音なり水土ハ百物の生る原なれば第二位にありて即ち第一位にあるに同じ試みに水土に屬する物の名を一つ二ついはむ天に棚引くかすみ、きり、かぎろひ、も水氣より生りあり、ゐも、けり、しぎ、くひな、しか、くま、きつね、たぬきの諸動物も皆水にすみ土の上に走ると誇り説く傍より如何もさもあるべしゐゝとも土につけくつも亦土につく殊にくろなどハ先生が水とゝもに畑の土ヲ撒たまふをおのれも見受たりきとぞいひける

○希臘名畫工の格言

昔グリーキにジユーキシスといふいみじき畫工ありけり或時童が皿に葡萄を盛りてもてる處をかけるに其葡萄の眞の物とつゆ違ハざりければ小鳥の啄まむとて幾回か飛來りてハ〳〵きたりとて其評判高かりしかば斯と聞る朋友何某ハ此事をジユーキシスに告しに筆者ハ悦ぶさまも見えず却て歎息していへるやう我畫ハ人物にハ未精神のいたらぬ處あるなるべし若童を葡萄と同じさまに眞に迫りて描き得さらむにハ小鳥も憚りて近づかざるべきものをと歎きしとか

○數學問題

(甲)甲乙二人あり甲の年ハ乙の年に二倍す然るに廿二年前にハ甲の年乙の年に四倍せり因て問ふ甲の年幾干

(乙)一器なり甲の管を開けば廿分時にして滿水し乙の管を以てすれば三十分時にして滿水す又丙の管を開けハ滿器の水を十五分時にして抽き盡すべし若し三管を同一時ヨ開かば幾何時にして滿水すべきや（以上の答式ハ來月一日迄に記者の手に達すべきものとす）

○第三十七號數學問題の答式

1時15分＝75分　12時30分＝750分

75分:750分＝1里:$x$里

$x=7\ \frac{50\times7}{15}=10$　答十里

解答者

○東京岩本とな○松永すゞ子○新潟右嶋信夫○攝州吉田ふく子○京都村井わか○吉村玉造○岡山堤飪太郎

# ◎寄書

○西洋女服仕立方の教を乞ふ　南総　鶴南女史

世の開明に趣くに隨て衣服も亦改良せざるべからざるハ自然の勢にして我邦に於ても先輩の嘖々之を說くありて今に至



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

りゝの說既に輿論の全部を占め男子ハ頭にハットヲ頂き身に洋服を着るもの甚だ多きに至れり然るに退て女子を見るに頭にボネットを頂き身に洋服を纏ふもの幾何かある恰も晴天の晨星も啻ならざるべし是れ妾が常に遺憾とするところなり故に妾ハ自から奮ふて不体裁なる從來の和服を脫し文明社會に行はるゝ洋服に改めんと欲すれども如何せんこれを裁縫するの方を知らず已むを得ず職工を依來せんどするも山間僻地の不便なる十數里外にあらざればその人なく且つ仕立賃等非常の高價を貪ほられ妾がごとき素寒貧のものハ何時文明服の港に達するや茫乎として際限を見ざるの思ひあり嗚呼天下の廣き女子の衆き或ハ妾と感を同ふするの姉妹蓋し鮮なからざるべし希くハ西洋女服の裁方縫方等を貴舍叢誌に投寄して記載する事あらば啻に妾一人の幸福のミならず我邦の姉妹をして衣服の改良を計らしむるの捷徑たらんと信ずるなり〔西洋服の裁方ハ次號より本紙に揭載する都合なれども尙ほ讀者諸君よりも尙見込あらば尙投寄あらん事を乞ふ〕

○東髮法の問　在西京　無名氏

一筆申上まゐらせ候近ごろ東髮大に流行いたし私ことも聊か敎育に從事いたし居候てこれまで日本風の結髮ハ時間も多く費え且つ衛生上にもよろしからずと心配いたし居候をりからゆゑ大賛成にて自から束髮になり候ところ思ひの外頭痛甚はだしくいろ／＼工夫いたし候へども今に良法これなし何卒頭痛のいたさゞる束髮法ハこれあるまじく候や御をしへを乞ひまゐらせ候かしく

○敬神愛國　三田　中村かね子

天さかるひなの國すらやそらきて神とききみとの惠みをそしる

○秋田　仝

おしなへてたはむ穗末にゑるきかな田面に見る御代の豐けさ

○寄雲戀　仝

おはでのみ月日へぬれば何となくこゝろにかゝる夕ぐれの雲

○雪　赤坂　松山やう子

かきくらし降しく雪に埋もれて重けにひゞくいりあひのかね

○月　仝

今ハとてねなましものゑ幾たびのまさあらそるゝ秋の夜の月

○花　仝

千早振かみのい垣にけふよりやゆふかけ添ふと見ゆる初はな

○書懷　越後　右嶋信夫

過隙白駒何去匆、春眠未半聽秋風、寄言世上有爲士、一決只期竹帛功、





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

驛遞局認可

## 廣告

米國フルベッキ校閲
日本清水彥五郎訂正　菊池武信著述

# 英語發音秘決

正價二拾五錢
郵送費八錢
郵券代用送費共三拾四錢

此書ハ世間流布ノ獨學自脩等ノ書ノ如ク原文ニ不充分ナル假名ヲ附シタル杜撰ノ者トハ異ニシテ菊地先生多年敎授ノ經驗上其實効ヲ得ラレシ者ト歐米諸博士ノ發音法トヲ併セ記シ殊ニ「フルベッキ」清水両先生ノ叮嚀ナル校訂ヲ加ヘラレタル者ニシテ英字廿六ノ名稱ヨリ各字及ヒ綴字ノ發音法音符默字ノ概則文章讀方法數字重字略語等ニ至ル迄凡ソ正則ヲ以テ英語ヲ學ブノ材料ハ一モ漏ス所ナク殊ニ中間圖畵ヲ抑デ發音機ノ作用ヲ示シタレハ此書ニ據テ習學セハ敎師ニ就クヲ要セスメ其發音ノ正シキヲ得ルヤ毫モ英米人ニ異ルヿ無キニ至ル可シ

千葉師範學校卒業
体操傳習所敎員　馬場壽編

新撰 小學體操書　全三冊

| | | | |
|---|---|---|---|
| 上卷 | 遊戯ノ部 美容術隊列運動徒手運動 | 拾五錢 | 郵送費四錢 |
| 中卷 | 亞鈴運動 | 貳拾錢 | 同　六錢 |
| 下卷 | 球竿運動 | 拾五錢 | 同　四錢 |

右書ハ馬場壽君卓越ノ學識ト多年軀体敎育ニ從事シテ得ラレタル經驗トヲ以テ敎育ノ理法ニ從ヒ小學校ニ適合スベキ樣編纂セラレタルモノニメ完全無欠比類ナキノ小學体操書ト云フベシ上卷ニハ極メテ愉快ニシテ直チニ行フヲ得ベキ遊戯二十余種ヲ記シ中卷ニハ隊列運動美容術徒手運動ヲ載セ下卷ニハ啞鈴運動並ヒニ球竿運動ヲ記シ當時敎科書中各縣ニ於テ需求最モ多キノ書ナリ

東京大學醫學部大條艮隆校閲
醫學專脩祖谷才司編輯

# 醫術開業試驗問題答按錄

定價郵税共四拾錢
郵券代用四拾四錢

本書ハ明治十[illegible]年ヨリ十八年ニ至ル內務省發附ノ醫術開業試驗問題幷ニ答[illegible]ヲ掲載シ且籠頭ニハ該試驗ニ關スル諸則ヲ載セリ實ニ應募者必讀ノ書ナリ

日本橋區馬喰町二丁目一番地
發兌　石川治兵衛
東京々橋區南鍋町貳丁目
賣捌　積文舍

---

# ●詩文和歌添削

詩文ハ月謝三十錢和歌ハ月謝廿錢モシ照會ノ事アラハ往復ハガキヲ御用ヒアルベシ

東京麻布富士見町廿號地　添削者　稻村城山

---

# 團々珍聞

十月十六日發兌
第五百六十六號

右珍聞中ニ掲クル本欄內欄二樣ノ影坊子ハ彩色ヲ用イ頗ル目新ラシキ壽圖ナレハ益御購求アランヿヲ希望仕候

東京神田雉子町　團々社

---

本誌代價表

| | | |
|---|---|---|
| 壹冊 | 正價金四錢 | 此郵税壹錢 |
| 拾冊 | 同金三拾八錢 | 同拾錢 |
| 二拾冊 | 同金七拾五錢 | 同二拾錢 |
| 三拾冊 | 同金壹圓拾錢 | 同三拾錢 |
| 四拾冊 | 同金壹圓四拾錢 | 同四拾錢 |

但シ東京十五區內郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ發誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ通運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手にて一割増し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み共爲替券と本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　積文舍
持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野鎌五郎

---

文學叢誌賣捌

| | | |
|---|---|---|
| 東京芝區愛宕町一丁目三番地 | 大賣捌 | 修正堂 |
| 同　神田區淡路町 | 同 | 巖々堂 |
| 同　神田區佐柄町廿一番地 | 同 | 東海堂 |
| 同　日本橋區新葭町 | | 良明堂 |
| 同　牛込區肴町十七番地 | | 活神堂 |
| 同　芝區愛宕下町二丁目 | | 高槻堂 |
| 同　蠣殼町貳丁目 | | 信文堂 |
| 同　本鄉區本鄉元富士町二番地 | | 盈春堂 |



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY